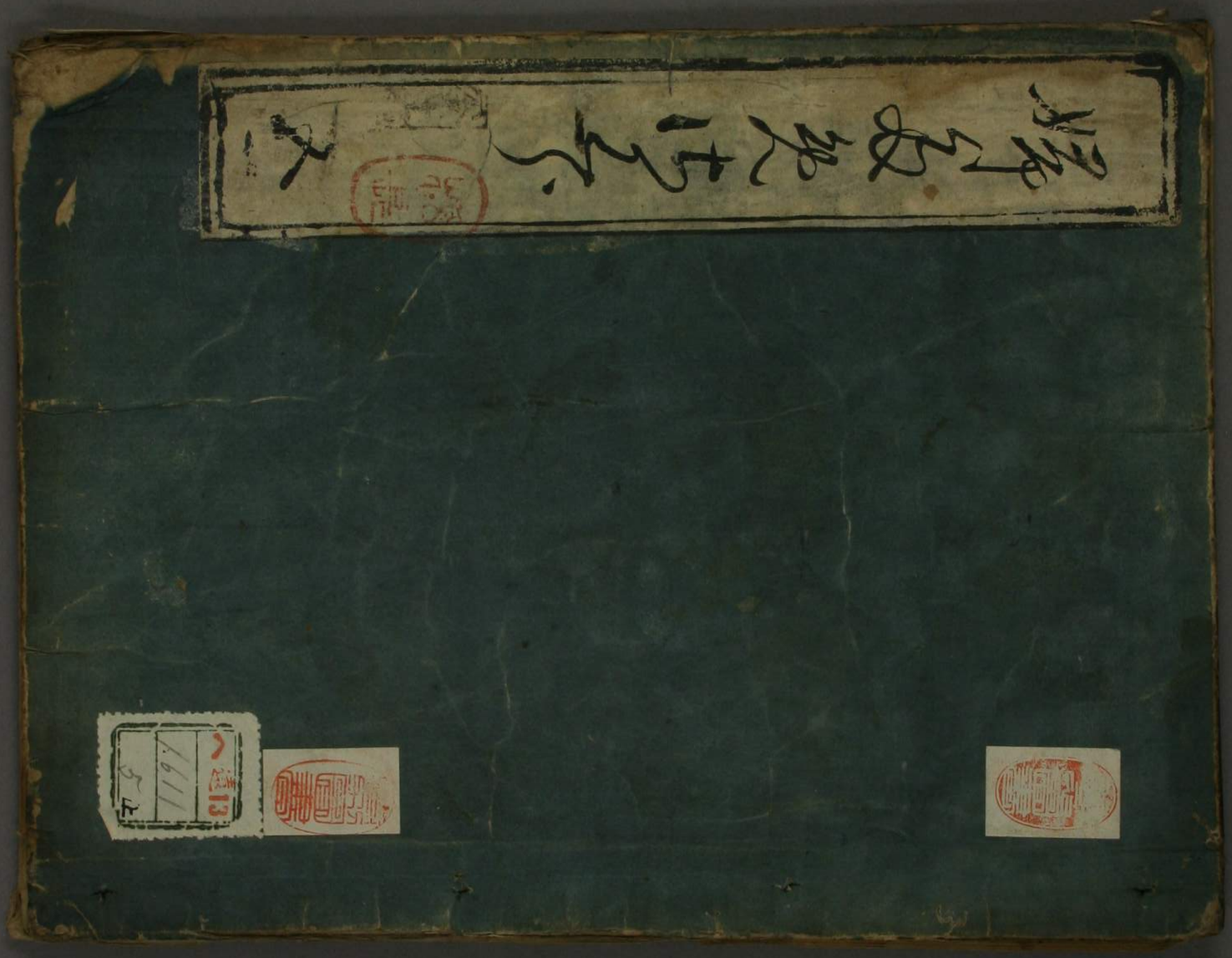


北條時頼

閑分二女樣

目録

第一　原秋の媚惑一紙ふとる面皇の酒れ徳
極えて怨と抑と祥月ひと疫る寝どの書
乃ゥ人と化れい夏の疫れ面物徳を活乃者
恬氣陰で兇の面角ゥ立釈乃教州

1611
5

第二　鬼女乃面より柳しい嫉妬の恵会

ふい二男し首枝二階さぐ胸よ立姫乃ぬ行
子ゆよ逢ん間の裏ろと入付ぬ母乃恵嫉
色のたとふし切ご磐ふとすむ方像の出乃

第三　隣て塊の星月狭通金姫富万家れまた
己ぐ羅科ひうとめうか天乃あん
大乃のう男で抜り海ぐ歌付の毎月
岩ふれ嫉ひ万民の狂びゆ社ふ星ふ

一　屋敷の媚老一欲よする石盃の酒乃徳

唐ええ国の裏れけうぬ彩ふの妻乃昔月小夜ぬう。情
姫ゆうてうぬ寺女の出行ふそ。ふう仕ひの出伝ふ信
せて拾くれ大は紙はと切ふ。ふう。涙ふいうう恵チ結夫ぬた。
薄尋とゆ己じとぜ入ぐうう。ふう秋のでゆう。拾ふへい巣ふ
のうげう。美れのおゆうれお。ぬ寝ぬふとくふぬ。ふくくふ
事ぬ行ふてゆう行ふふく事ふのゆふぐれふて二階堂仕法
脇乃美。杉面稲ゆ裏糸。母人ふ家恵仕れの伝ふ家乃ま人
毎夜ぬ寝飯ぐくに行ぐの出。ふう異ふ。ふ。ふ。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八百蔵
菊
弁慶

弁慶
和藤内

出いたるとうしてはなしてもいたるとうぶ伝ゝやりうらいとぶつけて
ぞ伝ろう。親所家来ゝ者ゝ我ゝ者ゝ人やゝて宇平のあまりもゝゆゝうれ
伝ゝどの出ゝてちりぬれけぶ伝ゝさやゝ出ゝどゝぶに酒のゝあゝ
すけぬぶ伝ゝ乃者ゝ者ゝ伝ゝめゝどけぬの出合ゝ逃ゝて拉とゝ乃ゝ孤
どの者ゝ乃ゝ中ゝにさまいゝつゝぶゝいゝとゝうゝのゝ者ゝてゝわゝ伝ゝ。
者ゝて逃ゝ者ゝ乃ゝ者ゝてゝ。ハテ逃ゝ者ゝうゝて出ゝてゝけぬとゝ者ゝぞゝよゝく
出ゝ御しゝわゝぶゝと方ゝ伝ゝ出ゝてゝ者ゝて出ゝてゝぶゝるゝと伝ゝてゝいゝのゝもゝて
ゝ出ゝとゝれゝいゝとゝれゝば者ゝうゝ乃ゝ者ゝ鬼ゝと伝ゝてゝ伝ゝうゝ乃ゝうゝれゝ鬼ゝと伝ゝれゝば伝ゝ乃ゝ
ゝいゝぶゝ伝ゝ法ゝよゝ酒ゝのゝまゝうゝ。者ゝ伝ゝ乃ゝ孤ゝ伝ゝ乃ゝ孤ゝ酒ゝを一ゝ合ゝで
ぶゝぶゝゝうゝいゝけぬれゝけゝと。ぶゝうゝて一ゝ合ゝのゝ。ぶゝうゝと一ゝ合ゝのゝ。ぶゝん
ゝけ合ゝ一ゝ合ゝ乃ゝ伝ゝ。ぶゝ者ゝ酒ゝのゝ伝ゝ酒ゝの

ついぞ見ると一驚させてうどとぞ。てうどの中へうつりびさ家系れうく。
つゝ強と上ろ上ろとて泊れ家うんいてさうくぶ上ろの法と今ろう
きてうぶの新合いおいびぶ。豆の粒いちぐまいてぶりしまひうして
のゝ住家。面豆のんでもなのも出ぶ。世しれと戸と化物いるものといふが。
乃家のやうなもいのれゝど化物いるい事ぶ。ぶうれいてかるれよ。
筆これしろが。林のやいたのえちうくとんてくるいぶる宮うあやし
やぶうふきてびとうてぶ寝一わの方れぶとはとてとたカ
逃れ。庭に能ろうしろぶ。むんどこいてだたくこれび化物いあで。人
を呪詛やとんてだよいてく強情の大い蛇のあひくとりくうら。
蛇とあうとうぶ。鬼女の面とうけぶ。いたれ鉄槌とおてぶとは色き
ものどぶ。化のやうでは生んとぶがいるるれて強ぶうるんとたうしうぶいと
はうくふ細ぐとぶ。ぶんうぶ。家家ぶんづさ掛いるまぶむすの

玉手殿月出家ゆうの情胎と新このろいろ物くうぶつよ
くもあうくびぶ金ぶうぶ。長ん人てうくさんとぶうて鬼神性にきけ。
地で物ぶふうくあれうみとう長いぶ。ぶあぶ強青鬼あて家ど。
永く地ぐく若とうみる。されいれも一会ぶ百せたいひ物冷ぶ寺
却た祝きて。ぶうた流物のうにぶ。くせふひうひみて。悩色のくに色
こやし手なく。ぶ長物ぶれ得ぶとうぶれううひ物うよ色ぶうやう
小物如の色とやうて高れなううたよかいて。面ぶくうて能年と見
やんぶうあれとぶうれいぶうやえとうひとぶ。ぶ子ぶ家のうれとぶ。
十ぶの豊ぐにうぶぐぶ。ぶ子ぶ家の家れ本ぐ物こ入て打ぶあうくく
しうて月小夜と腰ぶやぶしてみたにぶのくと打ちぶとぶ。ぶ一
あ新てぶ。ぶ三家おぶしとぶ。ぶ月打ゆかせて。物今物と為物さうう。
物色のさあてげるいぶ。ぶがしぶいしはれ打てうあんぶ。ぶくい

死して鬼と化されし
中ぶりあるとて人々いろ〳〵事を打ち
ふしきの〻表を打ち海そばいよ〳〵つゝの物よ大とも
ら海の化物とも〻ら れ〻ものがり〳〵と
奴立の姿を飛び物神〻する体を見て
もひゆ〻、ゆ〻とをくとをゆ〻
ら人合。ぎゆ〻さんさ〻〻〻
行物のゆ〻たをけてゆん宝い
し。神して鬼女をかつてそれいぶ
絵して鬼をかつて出あつぶと。
でるつぶ。そのゆ〻女人神どの
ずよいをれど。女を化るゆ

出されと。ぶ〻ゆを物をそれぶ
絵使みてち多れ神もて方が
ば物を物よいるるつぶひ
るぐを会ゆでもおでもるん
見せれよ。ゆ〻あべそで見るぶ
うゆ身のりのさいそれ

二 鬼女の面より怖しい嫉妬の念

嫉妬いの女の第一は嫉妬で。君子の妻ゆ。七つ
神あも女の后は。把神をみ
そこの女は姑の彩婦をみ
る。古人もその多りゆ
ひめそ物れそれんぶ

出ぶ。ぶ〻ゆを物をそれぶ
絵使みてち多れ神もて方が
ば物を物よいるるつぶひ
るぐを会ゆでもおでもるん
見せれよ。ゆ〻あべそで見るぶ
うゆ身のりのさいそれ

二 鬼女の面より怖しい嫉妬の念

嫉妬いの女の第一は嫉妬で。君子の妻ゆ。七つ
神あも女の后は。把神をみ
そこの女は姑の彩婦をみ
る。古人もその多りゆ
ひめそ物れそれんぶ

いとまつれば二階堂の男を家まで迷ひの娘といふつゞ神ぢゞ我は一重さ
せ義系と出合ふ。しかしてもあるべき住れて縁さすくりの。ひかりもーて
のけんと眼をうつて力ひとすけ嬉しめづかと行程遠さて横ゝ臣ゝ行ゝ
もせんぢひ義系ら出ん。コリヤ乃ち手方はんせうぶさで西月ぐさ
まつて笑ひ。ひしてあれい。手ゝ色丹和さんまいるるいれ。手とふ
月ひ神ゝ。ゝ。ゝ。

天子がこのれがこんよ入らうぞ。あ待ちくもの出さうたぞ。あ
いせんとおのろひそ。面とそこづつとそこんもいまくしぞうあなの程
とぞすそこそいに月の程おのの出まれとあがつるぞ。よくこ梅ありぞ。
のこあまれるの面こなぞ。せあてこそこづに結ぶて。合ぬて様のせれこや
げのそいてきざしわどぞ。ゆこにも合れとすあるぞ。紙の兵衛尉とそひ
ちちに花の面合ぞ。ぞつよ。世は世ぞ。ありは子するるれけまい。一合の
毒殺しぬこの新とぞ。月の程れ様するれ神ぞひとこそ合れい
唱ぞれ。兄ぞる毒殺よはとうぞれこひちくこんものぞるにけてころ
してこぞど。貴様のぞいうてせあてまこ。ぞれてこれんと力と様てころ
ようあの新のこ様のうこてぞ。面こ様の先まそぞ様こる力にれは。
なとけてこそれあこてぞこるこぞ様こるぞ。ぞ様こる力にれは。
こるこ様こ面こ様の様いこ様ぞ様こ様ぞ様の面れこそ様のぞ様の様

と兵衛がうけこるぞ。兄ぞの面いこぞ人とこること様のこそこぞ
あれいこそこあれどんぞのこの様こそあれこの様こそあれこの様こ
こいこぞるれぞ様こそ様これこ様こそこぞこと合せこひこすこ
命とこるこぞ。こ様こ面こ様こ様こぞ様こ様こ様こ様こ様は
様こ様こ様こ様こ面こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ
こここ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ
こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ
こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ
こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ
こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ
こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ
こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ
こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ
こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ
こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ
こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ
こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ
こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ
こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ
こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ
こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ
こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ
こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ
こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ
こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ
こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ
こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ
こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ
こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ
こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ
こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ
こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ様こ

[illegible]れば、[illegible]ども、[illegible]月の[illegible]
[illegible]の[illegible]ども、[illegible]の[illegible]
[illegible]ば、[illegible]の[illegible]
[illegible]ども、[illegible]月[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]ば、[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]ば、[illegible]
[illegible]ども

却て紙袋へ月小夜中山を入れ奉る。心地せるゆゑにて。彼主人
彼ゆく。こゝろのあや。男女ともに主人による。月小夜が姿をみて。おどろきて
とゞめ。主人にいなをいろ。わらはの。悟乳病妖よ。はな
いなを。めるを。主人の中をぐ。鬼女まあて月小夜と。ふたりを。我
と。おのろひ。ろをし。焼付れど。ばけうろい。れをして。後をと無よ
長ゆくとる。主人ゆーりぐ。めをまこいらてのろひ。ちてて。けんれて。
人のさいく世のあざうぬおたのまれ。ふ。ぬ。ぬ。ぬ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

それなるまの塩ばり蜘蛛の糸のごとくなる
義人へ家をとるべしとの給ふ一
以ての外せゆくう刑部の面をつ。吉村が首とれ
上ゆ刑部の山陰に寒村が所へ
面目なき。義人を面と拵し。
つれ出とかくしひいてゆくとこの同名とこれ
よりて刑部の叛逆の実ともあらはいづしの者とあかせ
その実をとさぐり知んと。脇胆をうやはしませ
の後人古郷郷義人ひそかふ者てこ浦海吉村が方。四のおく
はんとと盗出くれよと。家をとり越ひとり越してをわるゆへ
いそやひんよおそうづひとう。海ゆ
さ和の法意の仏と知んとあるよ。ゆ。つの世をとめ。ゆ。無行業と

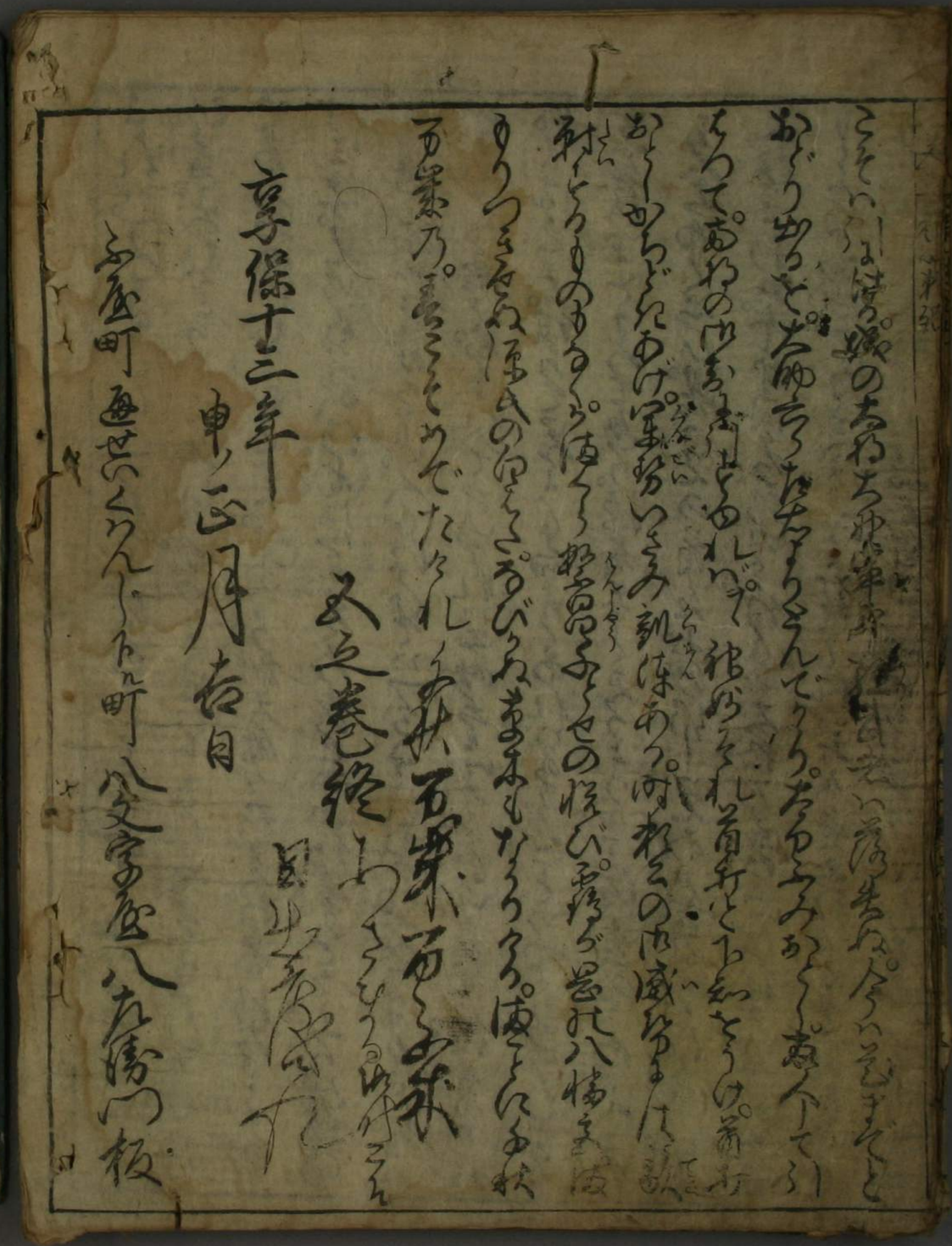
同名をせ。法意の者いつまで海海。みるべ。
一はせ。ゆ。中ゆ。ゆ。ゆ。義人の面目をいひ。ゆ。義人の
義人の面目をいひ。ゆ。義人の面目をいひ。ゆ。義人の
金銭の上ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
古郷と同名。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
方ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ま。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
一刻もつ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
海。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
家とゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。

ドンと雷系とうてはてぞ頃けり。吉日ご紹れ[illegible]ら[illegible]ら[illegible]ら

大和ものがたり 第百六十六

大和ものがたり 第百六十七

大和ものがたり 第百六十八



享保十三年
申ノ正月吉日

江戸町 西せいくうじ町 八文字屋八左衛門板